参考資料

第１回 高知港海岸景観・利便性等検討会

〔参考資料〕

－ 目 次 －

＜参考資料１＞「2014　高知市都市計画マスタープラン」・・・・・・・１
＜参考資料２＞高知港長期構想・港湾計画の概要・・・・・・・・・・・５
＜参考資料３＞浦戸湾・色彩計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
＜参考資料４＞海岸保全施設修景・利用方法等の事例・・・・・・・・・10

平成 28 年 11 月 8 日

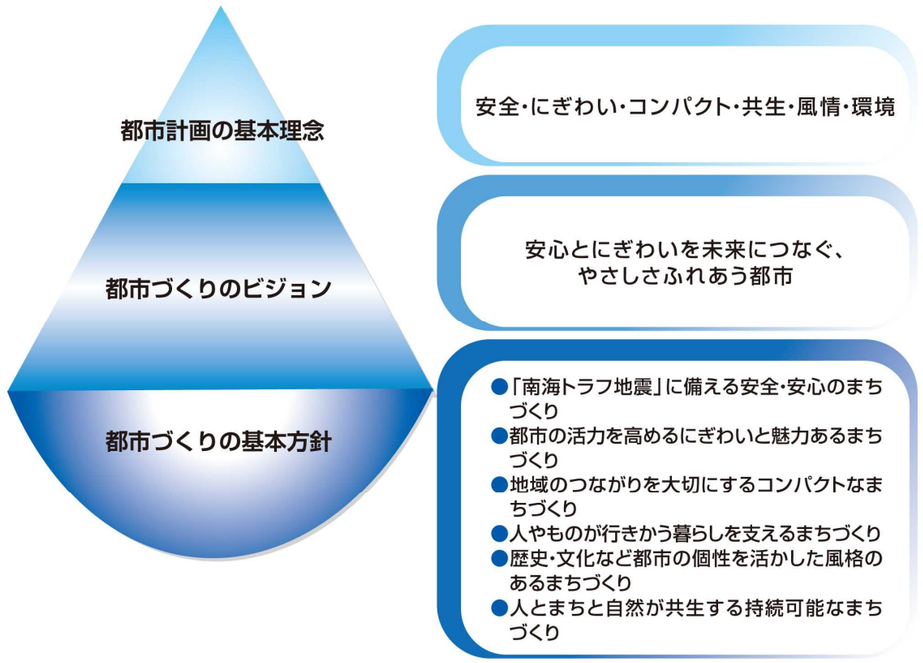
＜参考資料１＞「2014　高知市都市計画マスタープラン」

＜基本理念・都市づくりのビジョン・都市づくりの基本方針＞

下記のような２つの大きな視点から、高知市都市計画マスタープランを策定している。

○都市づくりにおいては、2011 高知市総合計画で示された「森・里・海と人の環　自由と創造の共生都市　高知」を将来の都市像とし、時代時代の都市課題に対応し、いつでも市民が安全・安心で暮らしやすい都市の形成や新たな産業基盤の創出を図るとともに、多様な交流と連携などにより地域をリードする県都の発展に取り組む。

○南海トラフ地震が予測されるなか、東日本大震災の教訓や課題に学び都市の防災力を一層高めるとともに、これまで構築してきた都市基盤は、適正な維持・管理を行い、後世に引き継ぎ、現在の都市の強みや特色を最大限活かす都市づくりを進めて行く。



基本理念・ビジョン・基本方針

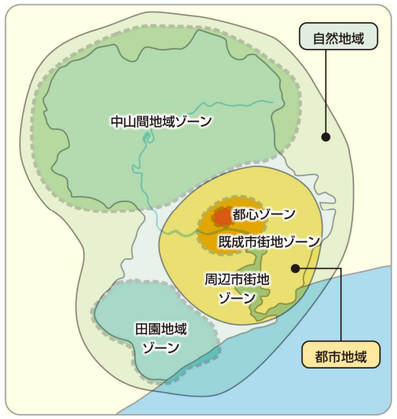
＜都市ゾーニング＞

浦戸湾を取り巻く地域は都市地域にゾーニングされており、湾奥より湾口に向かって、「都心ゾーン」「既成市街地ゾーン」「周辺市街地ゾーン」が設定されている。

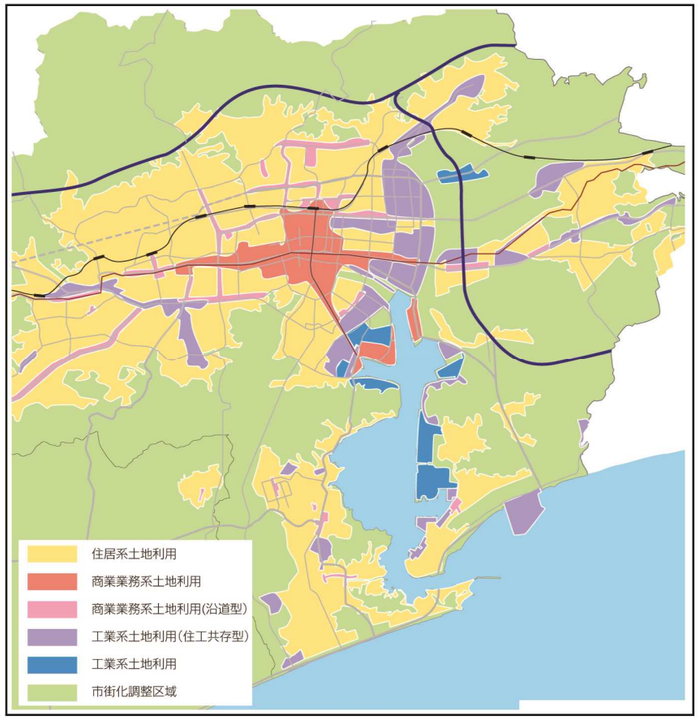
「都心ゾーン」：魅力ある都心空間の形成を図るため、土地の高度利用の推進や都心居住を促進するとともに、中核市としてさまざまな機能を充実させる。また、都心の魅力と回遊性の向上、歴史・文化的資源の活用を図り、にぎわいと求心力の回復に取り組んでいく。

「既成市街地ゾーン」：低・未利用地の有効活用、密集市街地などの都市基盤整備が不十分な地区の改善など、住環境の再構築を進め、生活環境の向上に取り組むとともに、商工業などの産業活動を効果的に支える土地利用に取り組んでいく。

「周辺市街地ゾーン」：良好な生活環境の形成と豊かな緑・水辺空間等の自然環境の確保・保全に努め、住環境の整備を図るとともに、地域特性や交通利便性等を活かした魅力ある就労環境の創出に資する産業基盤の充実を図り、周辺環境と調和のとれた有効な土地利用に取り組んでいく。



都市ゾーニング



土地利用方針図

＜都市美および地域環境に関する方針＞

県都としての風格ある「美しいまちづくり」と「魅力あるまちづくり」の実現を目指し、市民とともに保全と創造の両面から、良好な景観形成に努めることを目標に、右のような施策の方針を定めている。

都市美の基本方針	施策の方針	施　策
	1)美しい眺めの保全	①地域の風景の保全と創出
		②風景を眺める場所の保全
	2)豊かな自然の育成	①水と緑と生態系のネットワークの形成
		②自然とふれあえる場所の保全
	3)歴史、風土に根ざした美しいまちなみの創出	①地域の歴史や気候風土に対応したまちなみの保全
		②風土に対応した防災機能の保全
		③長期的な利用に耐える素材の活用
	4)まちのにぎわいの創出	①にぎわいの場の保全と創出
		②地域の特性に配慮した屋外広告物
	5)市民参加の景観づくりの推進	①継続的な維持管理
		②市民による景観づくり

温室効果ガスの削減や生物多様性などに寄与する森・川・海の豊かな自然、市街地や集落と一体となった里山や農地などの良好な緑の保全に向け、NPO などとともに市民活力として取り組み、良好な都市環境を形成していく。

地域環境の保全と活用の基本方針	施策の方針	施　策
	1)水とみどりのネットワーク形成	①市街地及び周辺を結ぶ環境軸の形成
		②みどりの拠点を結ぶネットワークの形成
	2)河川の保全	①河川の水質保全等の取り組み
		②親水空間の形成
		③多様な生態系の保全
	3)里山･里林の保全	
	4)田園環境の保全	
	5)市街地内のみどりの保全と育成	①都市公園等の確保
		②市民等の参加と協力による都市緑化の推進
	6)循環と共生のまちづくり	①自然環境の保全
		②生活環境の保全
		③都市環境の創造
		④地球環境の保全

＜地域別のまちづくりの方向＞

◆中央地域のまちづくり

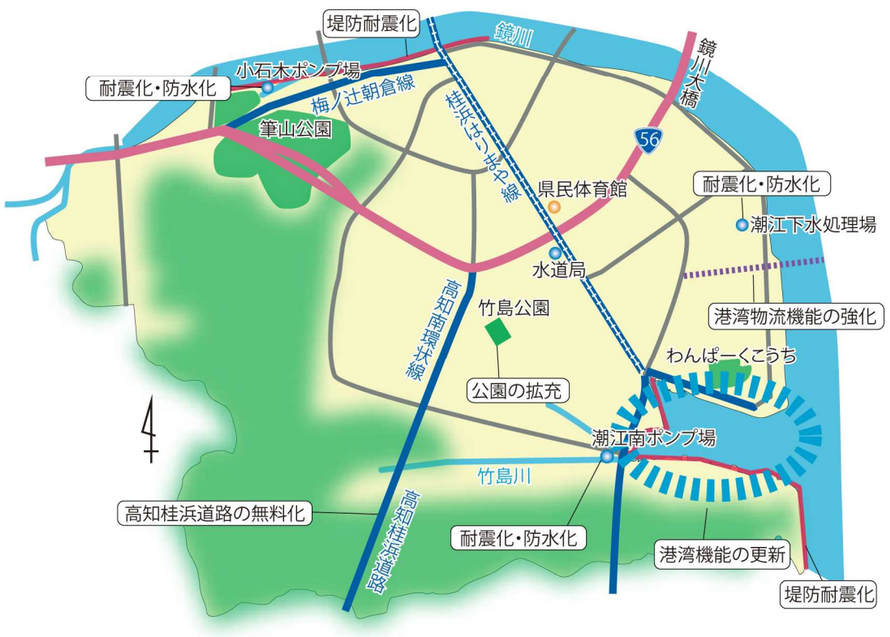
まちづくりのビジョン

城下町の風情を感じるにぎわいのまち

◆潮江地域のまちづくり

まちづくりのビジョン

みどりと暮らしがふれあう交流のまち



◆長浜地域のまちづくり

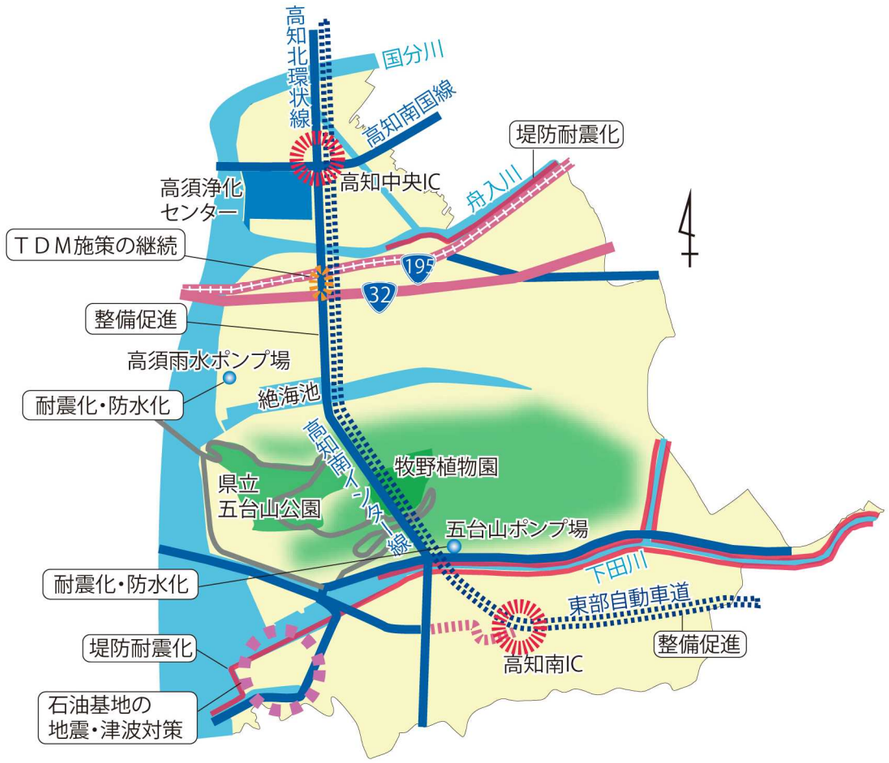
まちづくりのビジョン

海とみどりに囲まれた心やすらぐまち

◆五台山・高須地域のまちづくり

まちづくりのビジョン

自然を守りながら文化を育むまち



◆三里地域のまちづくり

まちづくりのビジョン

太平洋に開かれた新たな産業・交流を育むまち

＜参考資料２＞高知港長期構想・港湾計画の概要

＜高知港長期構想＞

高知港湾内の港湾空間については、人々が自然と共生し、交流が拡がる水辺空間として、拠点的な利用が計画されている。

（１）浦戸湾内の物流移転と新港のコンテナ取り扱い機能の強化

・外貿コンテナ拠点の形成

・浦戸湾内の一般貨物、フェリー・RORO 船を新港にシフト

物流移転と新港機能の強化

（２）臨海部の土地利用変更

・港頭地区の機能移転

・臨海部、低未利用地の再編整備

・高知市のシンボル親水空間、市民に開かれた親水商業空間の形成

土地利用変更

（３）水辺の開放と水域の活用・保全

・市民に浦戸湾を開放

・環境との共生

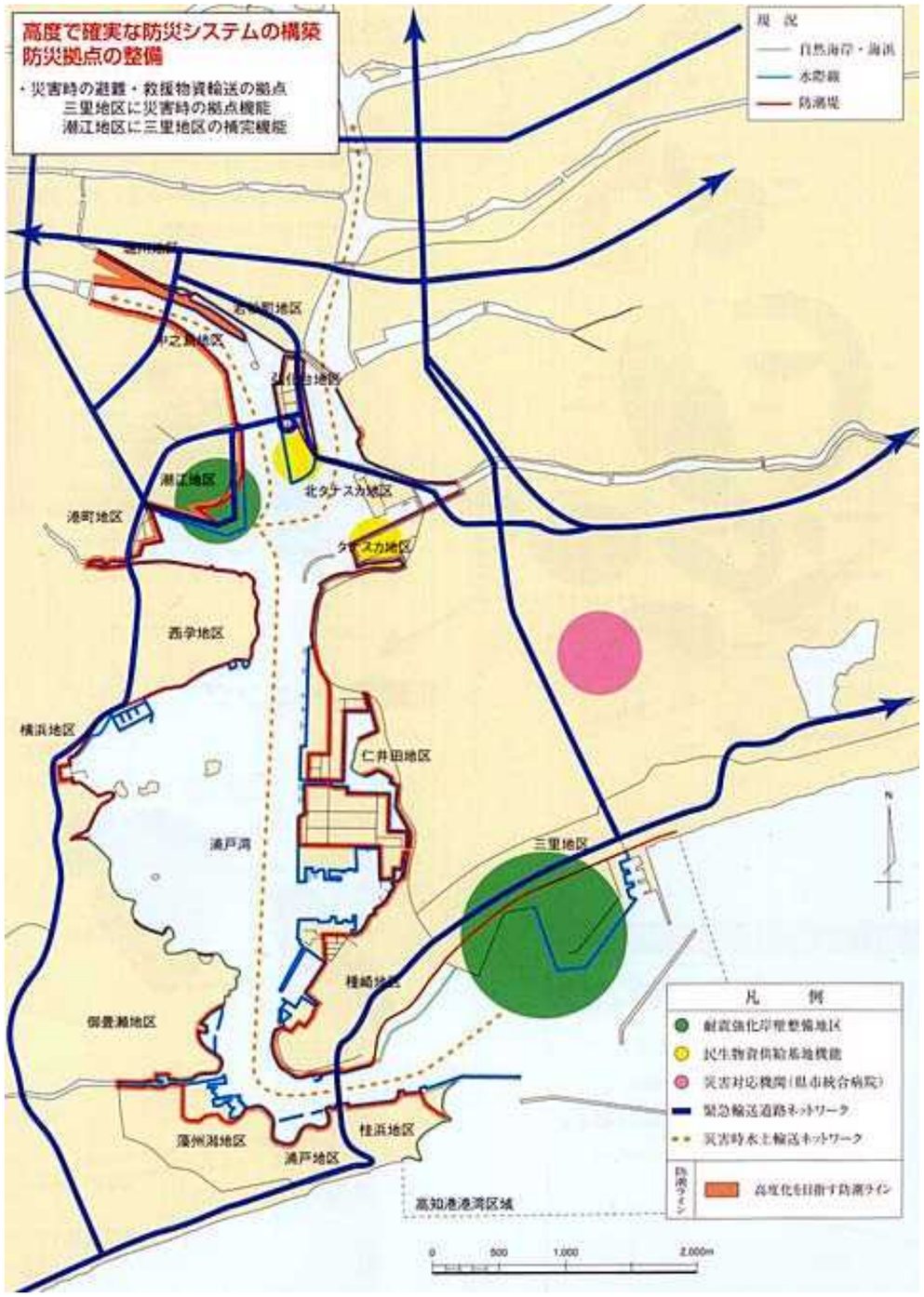
・新しい視点による小型船対策

水辺開放と水域の活用・保全

（４）安全な港づくり

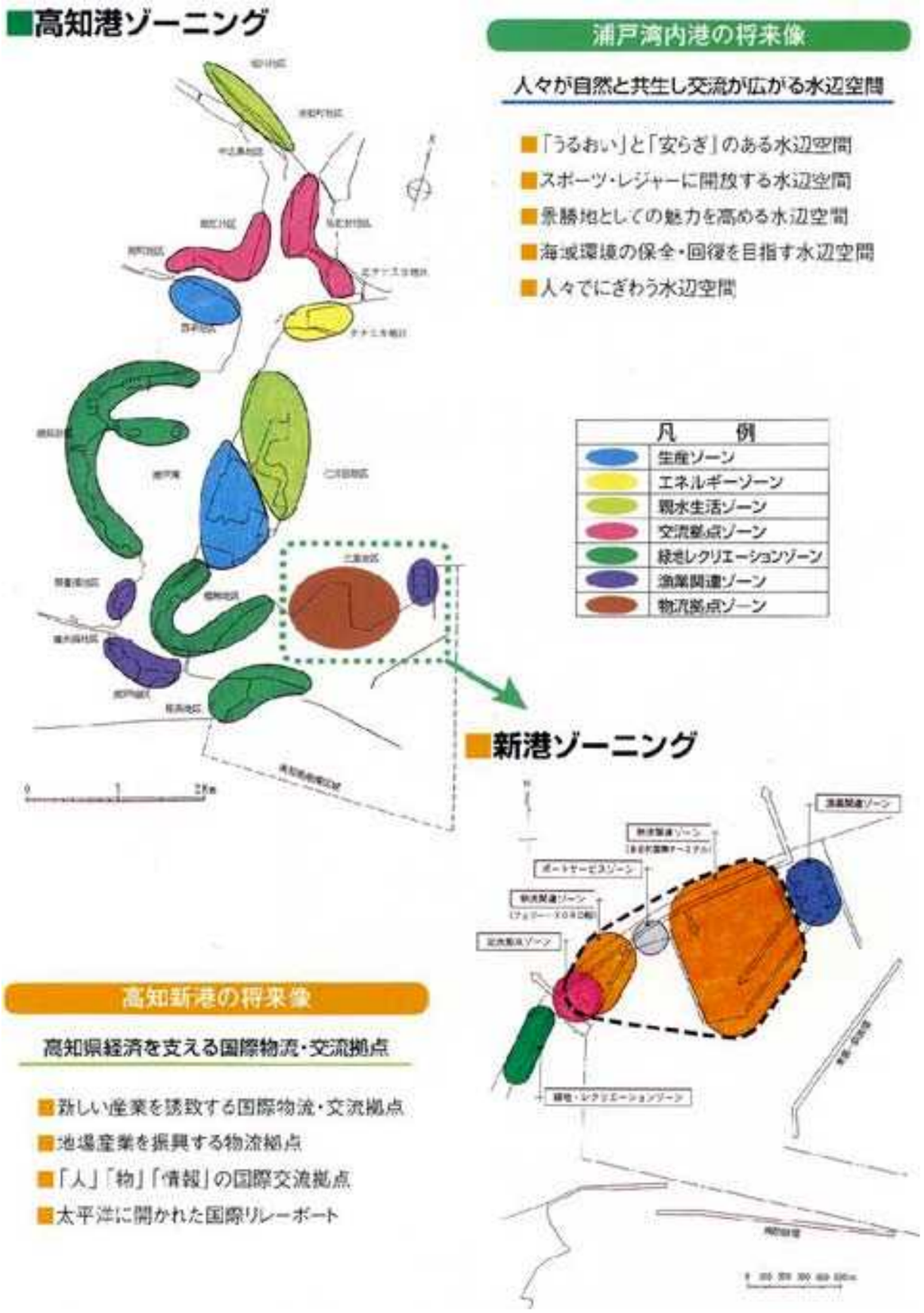
・「新しい港」に対する防災システムの構築

・三里及び潮江地区に防災拠点整備



安全な港づくり

＜高知港長期構想ゾーニング＞



高知港ゾーニング

＜高知港港湾計画概要（地区別）＞

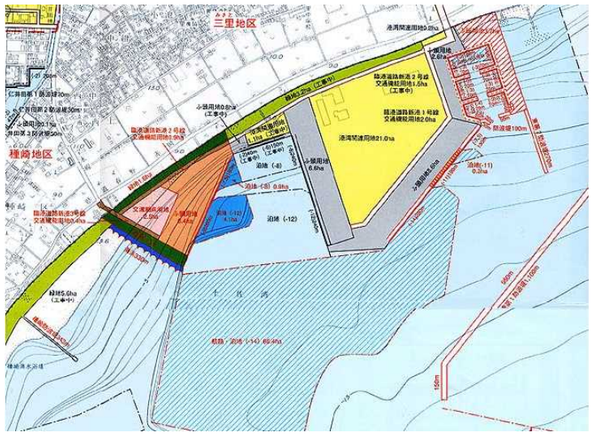
高知新港は「高知県経済を支える国際物流・交流拠点」、浦戸湾は「人と自然が共生し、交流が拡がる水辺空間」を高知港が目指すべき将来像として掲げ、この将来像の実現を図るべく、地区別に以下のような方針と計画内容を定めている。

（１）高知新港（三里地区）

・多目的な国際ターミナルとして、船舶の大型化やコンテナ化に対応

・石灰石などの地場産業を支える港として、高知港全体の貨物取扱量の約半分を取り扱う

・幾つかの機能を一定分離し、近くの物流基地との連携を図り、県産品の競争力の強化に繋げる



港湾計画図（三里地区）

（２）弘化台地区・潮江地区・港町地区

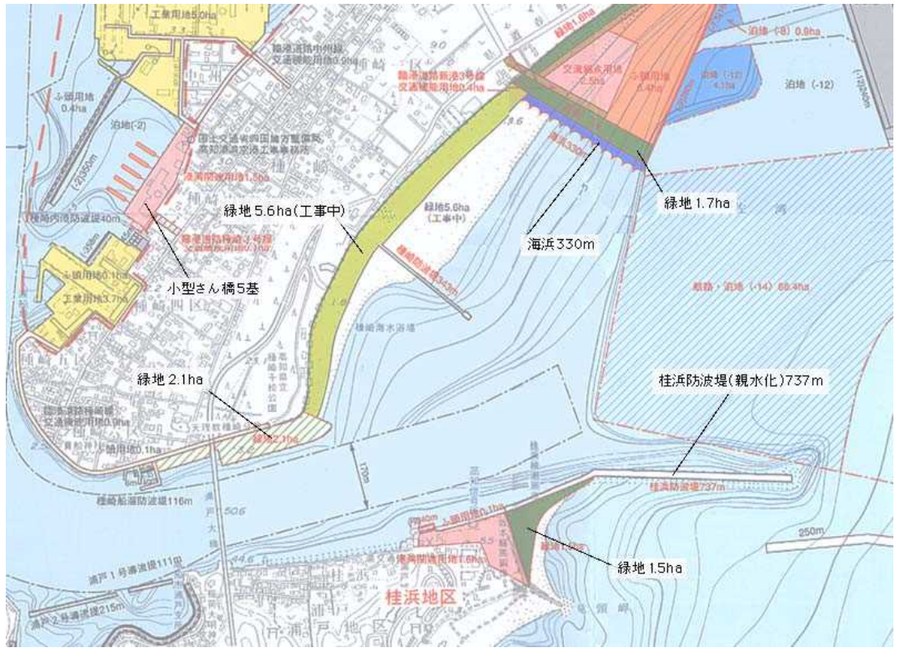
・潮江地区と弘化台地区を結ぶ連絡橋（4 車線）を整備

・潮江地区は、「わんぱーく・こうち」と連なる市民の交流の場として、耐震強化岸壁と一体となった防災機能を合わせ持つ緑地などを整備

港湾計画図（弘化台地区・潮江地区・港町地区）

（３）桂浜地区

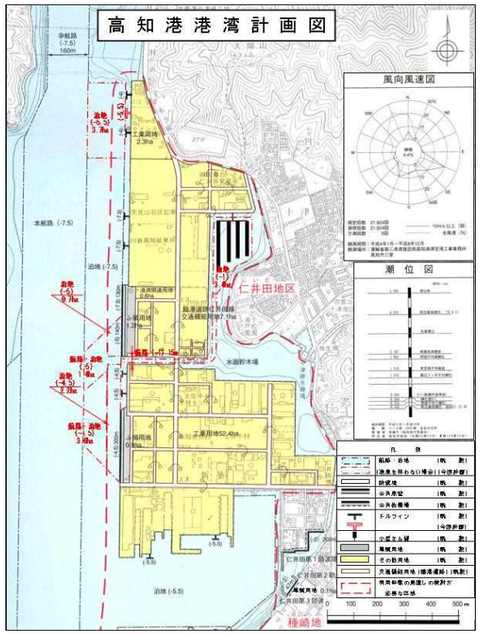
・桂浜の更なる魅力向上のため、桂浜防波堤周辺を新たな観光客の受け皿となるよう景観整備



港湾計画図（桂浜地区）

（４）種崎地区・仁井田地区

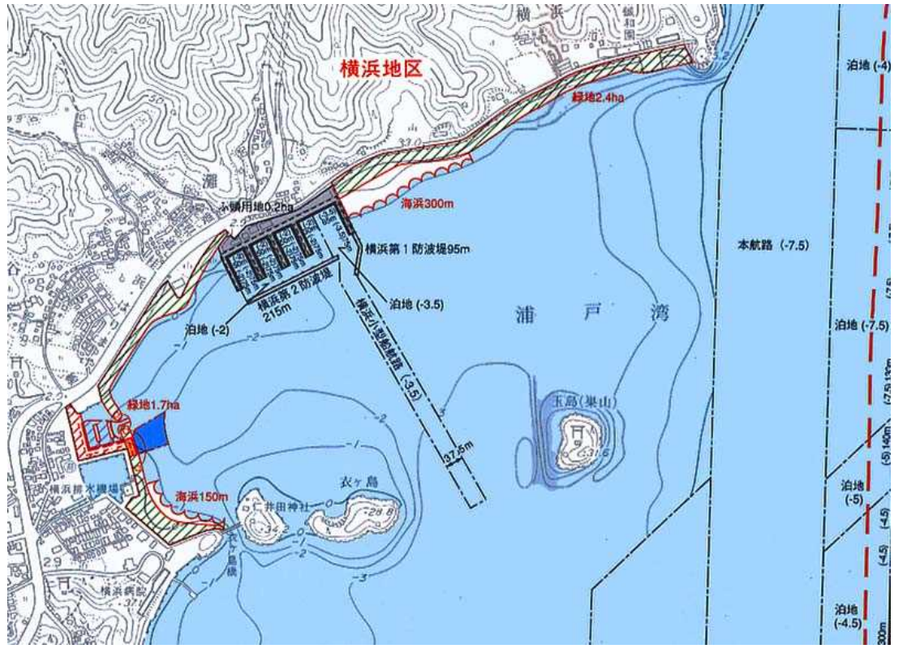
・種崎・仁井田地区などでは、港内放置のプレジャーボートの係留・保管のための施設整備



港湾計画図（仁井田地区）

（５）横浜地区

・横浜地区などでは、地域住民のニーズにかなったアメニティ空間を形成するため港湾環境施設整備



港湾計画図（横浜地区）

＜参考資料３＞浦戸湾・色彩計画

浦戸湾の色彩計画は、平成 12 年度の高知 NPO「浦戸湾みらい会議」の発足を契機に、平成 14 年度から「浦戸湾・色彩計画専門部会」として本格的に活動し、平成 16 年度に高知工科大学社会システム工学科の重山陽一郎教授を会長とする「浦戸湾・色彩計画策定協議会」に発展し、浦戸湾のゾーンごとの色彩計画の考え方やシンボルカラーなどの提言を「浦戸湾・色彩計画」として行っている。

また、高知工科大学においても重山陽一郎教授の指導のもとに石川真理氏が「浦戸湾のより良い環境形成を目指して：色彩計画から」が高知工科大学紀要に論文発表を行っている。上記の「浦戸湾・色彩計画」は石川氏の論文と同様の内容であることから石川氏の論文も参考に以下概要を示す。

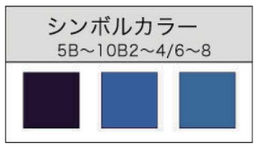
＜色彩計画の目標＞

○浦戸湾らしい風景をつくり出す。
○ゾーンの特性に応じた風景をつくり出す。
○長い時間の経過に耐える風景をつくり出す。
○メリハリのある風景をつくり出す。
○市民や関係者の力を合わせ、みんなに愛される風景づくりを行う。

＜色彩計画の基本方針＞

◆浦戸湾の風景の中で重要な色彩の位置づけを行う。
　海や空の青色、山の緑色を、浦戸湾の風景の中で重要な色彩として位置づける。

◆シンボルカラーの設定。
　基本的にすべて建造物に用い、浦戸湾の色彩に統一感を持たせるために、シンボルカラーを決める。シンボルカラーは「青」とし、多様な景観性を有する浦戸湾の各ゾーンに対応するため、ある程度幅をもたえたものとする。



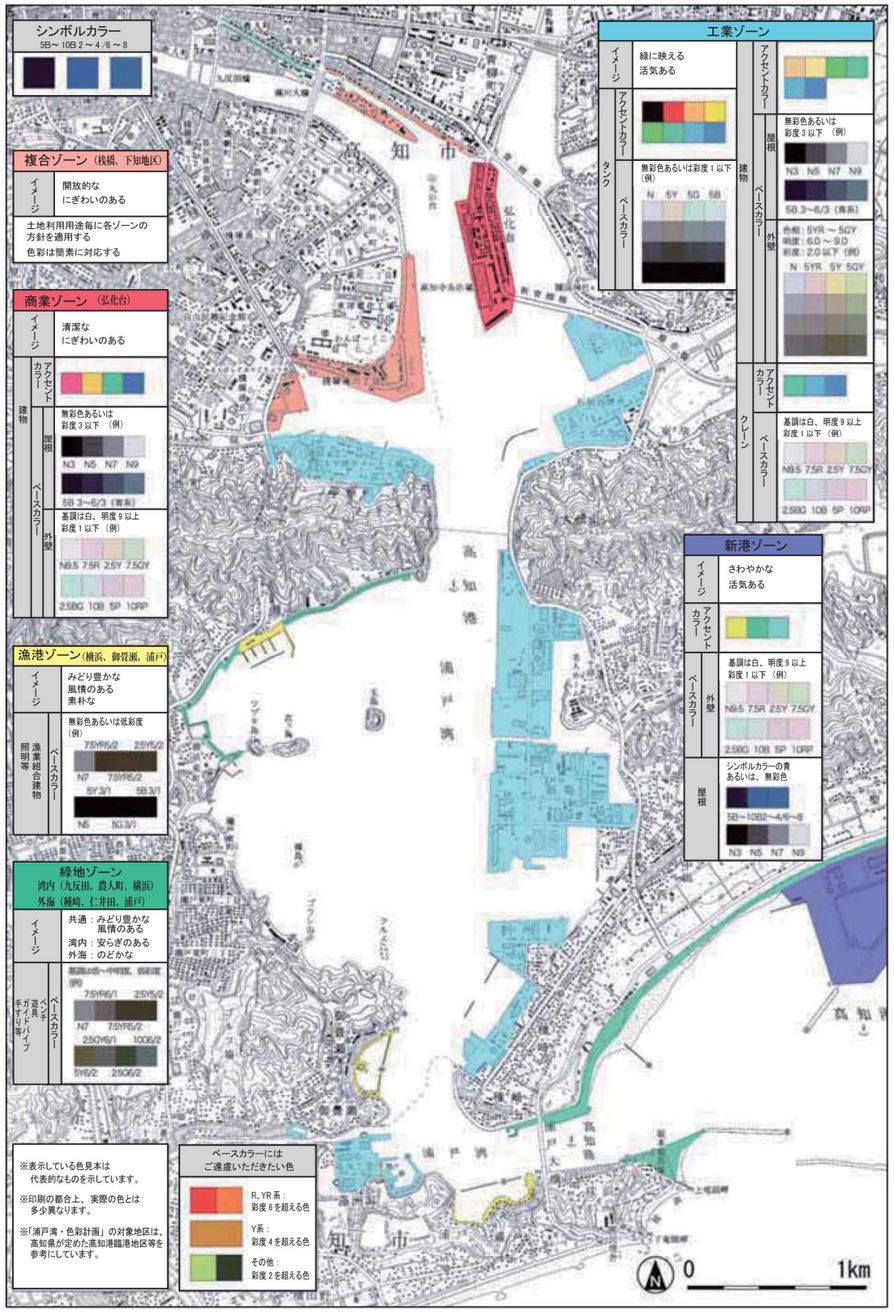
◆ベースカラーの設定。
　風景の基調となる色彩を既存の風景から各ゾーンごとに抽出し、建物の壁面や屋根など、比較的広い面積の場所を対象に適用。また彩度の高い色を禁止色とする。

◆アクセントカラーとアクセサリーカラー。
　ベースカラーと組み合わせ比較的小面積で使用し、建物の表情にアクセントを与える色彩をアクセントカラーとして位置づける。また、企業のロゴマークなど会社のアイデンティティとなっている色彩はアクセサリーカラーとして位置づける。

色彩の組み合わせイメージ

＜浦戸湾・色彩計画＞

浦戸湾沿岸は、工場や物流施設だけでなく古くからの漁港や住宅、自然の山林など様々な土地利用が行われていることから、「工業ゾーン」「新港ゾーン」「複合ゾーン」「商業ゾーン」「漁港ゾーン」「緑地ゾーン」の 6 つのゾーンに分けて、ゾーンイメージやベースカラー、アクセントカラーなどの提案が行われている。

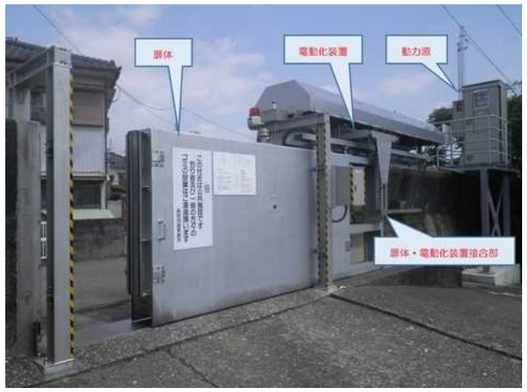


浦戸湾・色彩計画

＜参考資料4＞海岸保全施設修景・利用方法等の事例

①陸閘の利用によるアクセス向上

電動型や遠隔操作、感知式や圧縮気体、フラップゲート式など様々な陸閘を活用して海岸利用を行っている。



ゲートの電動化・遠隔操作（平時：商用電力、停電時：蓄電池）

フラップゲート式可動防潮堤（徳島県（日和佐港））
人為操作なしでも自然の力を活用して自立閉塞

出典等：・高知県ホームページ　・日立造船（株）ホームページ

②避難路利用

防潮堤に階段や背後に階段・斜路を設置し、避難路として利用している。

避難路の整備（奥尻町）

避難路の整備（田老町）

出典等：・奥尻町ホームページ　・ヤフー写真集

③背面の公園利用

盛土を行い、眺望を確保するとともに背後の土地利用（公園、歩道など）と一体的に整備を行っている。

周辺地盤から徐々に高くした斜路と植栽帯による修景

出典等：・ヤフー写真集

④階段・スロープの設置による親水利用

階段や斜路を設置し、天端を眺望、散歩やサイクリングに利用している。

階段の設置（石巻市渡波海岸）

防潮堤への斜路の設置
防潮堤の上を、散歩やサイクリングに使えるように提案

出典等：・ヤフー写真集　・いわき市議会議員ホームページ

⑤適切な避難誘導

夜間にも配慮した看板・照明により、適切な避難誘導が図られている。

地震を感知すると、必ず点灯する避難経路照明（ソーラー街路灯）

視認性の良い看板設置
夜間には太陽電池で点滅表示

出典等：・高知県 ホームページ　・奥尻町ホームページ

⑥背後の自然や集落と調和するような形態・意匠

擬岩や化粧型枠、張ブロック、自然石埋め込み（ブロック）、レンガ張などによる修景。

擬岩による修景

自然石張りブロック

出典等：・日建工学（株）ホームページ　・環境工学（株）ホームページ

⑦躯体の緑化による修景

躯体の前面や躯体に植栽スペースを確保することにより躯体の印象を軽減するとともに緑による良好な景観形成を図る。

自然石パネルの貼り付けとともに前面をツタ類で緑化

防潮堤コンクリート法面に厚層基材吹付

出典等：・ナチュロックジャパン ホームページ　・ソイルレスキュー　ホームページ

⑧海への眺望の確保

防潮堤に透明な素材を部分的に用いることにより、高さの印象を軽減するとともに、海への眺望を確保し、アメニティを高める。

景観配慮型防潮壁（防潮堤）
シーウォール

出典等：・エステック（株）ホームページ　・ヤフー写真集

⑨背後盛土緑化による修景

躯体背後、陸側に盛土を行い樹木を植栽し、構造物の存在をわからないようにするとともに緑による景観性向上を図る。また、植栽をイベントとして行うことにより地域の人々に愛着と関心を持ってもらうことが行われている。

（植栽後・法裾から/岩沼海岸）

（植栽後・天端から/岩沼海岸）

出典等：・仙台河川国道事務所ホームページ

⑩長大で連続した圧迫感のある景観の軽減

防潮堤壁面に凹凸をつけるあるいは縦目地などを設置することにより横方向の長大な連続した印象を緩和するなど。

上部のデザインを下部と異なったものとし、高さの印象緩和とリズム感を創出

縦リブを作ることにより、横方向の長大な印象を緩和

出典等：・ヤフー写真集
・海岸防護施設の風景（早稲田大学　佐々木葉　土木学会景観デザイン委員会　ホームページ）